

日本人の2人に1人はがんになる時代を迎えてるといわれる今日。部位別がん死亡数の第5位である肝臓がんは早期発見が難しく、その大部分を占める肝細胞がんは他のがんに比べて再発しやすいという特徴がある。そこで、長年肝臓がん治療に取り組んできた医療法人岩本内科医院の岩本英希医師と山口泰三院長に、肝臓がんの種類や治療法などについてお聞きした。



医療法人岩本内科医院
理事長 岩本 英希 氏

一人でも多くの命を救うために

肝臓がんの種類や特徴について

岩本 肝臓がんには、肝臓から発生する原発性肝がんと他の臓器で発生したがんが肝臓に転移した転移性肝がんがあります。原発性肝がんの約95%を占めるのが肝細胞がんで、一般的に肝臓がんというと、この肝細胞がんを指すことが多いです。原発性肝がんには、ほかに難治性のがんの一つである肝内胆管がんがあります。肝細胞がんは再発しやすいのが特徴です。原因はさまざまですが、肝臓そのものが肝炎や肝硬変という病気になつている原因のことが多く、肝臓のどこからでも新しいがんができる背景があるためと考えられます。

日本人に肝細胞がんが多いのは、発がんの大きな原因とされるC型肝炎ウイルスが多かったからです。最近、C型肝炎ウイルスは治療できるようになつたため、肝炎ウイルスに由来する肝細胞がんは減つてきてています。

山口 逆に増えているのが、B型肝炎でもC型肝炎でもない、多くは生活習慣病に伴う非アルコール性脂肪性肝炎(NASH・ナッシュ)という脂肪肝からくる肝臓がんです。脂肪肝から肝炎に、そして肝硬変になり、さらに肝臓がんへと進行することも少なからずあります。現代の国民病とも言える脂肪肝を患う方は多いので、今後、肝臓がんの大きな原因の一つになるのではないかといわれています。

岩本 中間期から進行期の肝細胞がんに対してもこれまではカテーテル治療が中心的な治療でしたが、最近は有効な点滴や内服の薬物治療が増えてきています。これらの有効な薬物治療が広まる中で、従来のカテーテル治療の質が改めて見直されてきています。

●一般的に切除ができない進行した肝がんに対する手術
門脈動脈同時塞栓療法について

岩本 肝細胞がんのカテーテル治療の一つに、がん細胞に栄養を送る動脈に抗がん剤と塞栓物質を投与し、がんを兵糧攻めににする、肝動脈化学塞栓術という治療法があります。この治療技術の質をより高めるために、血管造影とCTを組み合わせたアンギオCTという機械を使いながら、丁寧にがんの栄養動脈を見つけて、末梢の門脈が抽出されるまで薬剤を投与するカテーテル治療が行なわれております。この治疗方法は、私の父である岩本昭三(2014年)

絶対にあせらぬない 肝がん治療

エムシーホーム
コミュニティ株式会社
代表取締役 小野 慎也
北九州市小倉南区守恒本町3丁目3番6号
☎093(931)2077

ニッセイ住宅株式会社
代表取締役 久保田 広恵
北九州市小倉南区下城野1丁目9-17
(松井ビル1F)
☎093(951)6776代

グランド印刷株式会社
取締役会長 小泊 玉志郎
本社／門司
☎093(381)3939
福岡支店・東京支店

医療法人きはら内科クリニック
きはら内科クリニック
糖尿病内科
院長 木原 康之
〒812-0042 福岡市博多区豊2丁目2-45
☎092(260)8533
info@nihonsogokensacenter.jp
☎093(932)8777

日本総合検査センター
24時間365日 処方せん受付
西日本調剤センター薬局
〒812-0042 福岡市博多区野新町3-1-1
(メディプラ城野201)
☎092(260)8533
info@nihonsogokensacenter.jp
北九州市小倉北区大手町13-4
☎093(592)0511

有限会社浪速酸素商会
代表取締役 重留 輝泰
北九州市小倉南区横代南町5丁目1-15
☎093(961)4056